

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	芸術表現 I		（ NCR13I ）
講義名（コード）	芸術表現 I		（ NCR13IX ）
対象学科	国際コミュニケーション学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース	単位数	1
授業担当者	小笠原 あやの	時間数	30
成績評価教員	小笠原 あやの	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	広告デザイン、雑誌、書籍デザイン実務経験者	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	身近な素材やテーマから、自分なりに発想し工夫して「生活の中の芸術」を生み出す力を育む。身の回りにある「芸術」に気が付き、生活を豊かにする感性を身につける。
全体の内容と概要	ワークショップ型の作品づくり。グループワークもあり。自分の作品を発表したり、自分以外の作品を鑑賞し、感想を述べるなど、クリエイティブなコミュニケーションを展開する。
授業時間外の学修	あり（状況による）
履修上の注意事項等	その時その時を前向きに楽しんで取り組む。仲間と協力し合う。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	絵や工作が得意か否か、上手いか否かにかかわらず、工夫して前向きに表現しようとする姿勢を重視する。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	色彩感覚を豊かに、折り方や染め方などを工夫できる。	カラフル折り染め体験
2	「余白」を意識した構図を考え、対照をよく観察することができる。	自分の「手」をデッサンする①
3	〃	自分の「手」をデッサンする②
4	雑多な素材の組み合わせから、思いもよらない自分を発見できる。	新聞・広告・雑誌などを使った「コラージュ」①
5	〃	新聞・広告・雑誌などを使った「コラージュ」②
6	限られた色（モノクロ）の世界を、自分なりに表現できる。	ボールペン1本使い切ろう（黒画用紙に白ボールペンで自由に表現する）
7	原始的な腫瘍を用いて、「絵が動く」体験ができる。	アニメーションの原型「ムービーモーション」を体験しよう①
8	〃	アニメーションの原型「ムービーモーション」を体験しよう②
9	自分のイメージを象徴化し、他人に「伝える」デザインにすることができる。	自分を表す「シンボルマーク」を考えよう①
10	〃	自分を表す「シンボルマーク」を考えよう②
11	グループワークから刺激を受け、想像力を高めることができる。	逆から発想する絵画「○○じゃない○○」
12	テーマを意識して写真を撮ることで、表現の幅を広げることができる。	街に出て写真を撮ろう。～初夏の風景～
13	段階的に根気よく前向きに作品を仕上げるができる。	ステンシルプリント体験① 絵柄や構図を考える
14	〃	ステンシルプリント体験② 下絵を切り絵にする
15	〃	ステンシルプリント体験③ 切り絵を型にして彩色する

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	担当教員はデザイン分野での実務経験を活かし、クリエイティブな人材育成と身近なテーマから自己表現をする技法を授業中に学生に指導する。